



Soto-Zen Jyousenji

# 浄泉寺報

第 2 号



境内の紫陽花が露に濡れ色鮮やかに咲いております。

やがてこの、しっとりとした梅雨の季節も終り、本格的な夏がやってまいります。

時は美しく巡って、陽の輝きがあります。また寂しくも感じますのは、諸行が無常であるからでしょうか。

さて、この浄泉寺報も創刊号の発行から半年が過ぎ、ようやく第2号の発行となりました。

今回は、特に間近に控えたお盆のことについて、その意味や浄泉寺からのお盆に関するお知らせなどについて、掲載いたしました。

また、今年から始めた坐禅会、写経会、以前から行っておりました御詠歌講も参加者は、決して多くはありませんが、檀信徒の皆様や地域の方々との交流とふれあいの場づくりということで鋭意実施してきております。

特に、四月五日（日）に、実施しましたお釈迦様の誕生会「花まつり」ですが、例年は近所のお子様だけを対象とした行事でしたが、年々子供たちが減少し、寂しい花まつりとなっておりました。そこで今年からは、大勢の方々にお出でいただけるようシャンソンのライブ・コン

サート、同時協働いたしました。檀信徒の方々のご協力や主催者のYOU子歌クラブのご尽力により、定員を上回るたくさんのお客様がお見えになりました。これからの寺院の存在意義や活動のあり方を模索する中で、の試みでありましたが、先ずは成功裏に終わったのではないかと自負しております。

さらに、浄泉寺から常に新しい情報を皆様方にお伝えすべく開設した浄泉寺ホームページにつきましても多くの人に見ていただいているようです。また、アクセスされていない方は、是非一度覗いてみてください。

これからも工夫を重ね皆様へ支持される事業を展開してまいりますので、特に檀信徒の皆様におかれましては、お寺の行事ということ、躊躇される方もおられるかも知れませんが、一度参加されますと、思わぬ楽しさを発見できるかも知れませんので、様々な行事に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

おわりに、酷暑の季節を迎えますことからご家族様の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

住 職 合 掌

## 当面の行事等

8月8・9日 新盆棚経

8月13・14・15日 棚経

8月15日 万灯供養（イベント有り）

午後6時～午後11時頃まで（イベント午後7時）

8月17日 浄泉寺施食会

午前9時～午前11時30分まで

9月20日～26日 秋彼岸会

9月29日 両祖忌（道元禅師・叡山禅師忌日）

10月 5日 達磨忌（禅宗開祖忌日）

12月 8日 成道会（お釈迦様のお悟りの日）

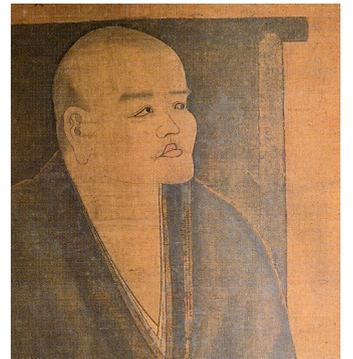
12月29日 お炊き上げ 午前10時 本堂前

※ お札等焼却可能なものなら、お炊き上げいたします。（無料・事前持込可）

# 道元禪師と永平寺

## 道元禪師

曹洞宗開祖道元禪師様（一一二〇〇年～一二五三年）は、正治二年一月二日に生まれ、幼名を文殊丸といいました。三歳で父を、八歳で母を失い、世の無常を感じ十三歳で出家の決意をし、比叡山に上ります。僧「道元」の誕生です。



曹洞宗開祖 道元禪師

踐を通じての中国の禪のあり方を強く教えられた。

中国に祖跡を訪ね、道を求める旅も決して思いどおりにはいかず一時は帰国を決意するも運良く、浙江省寧波地区の天童山景徳寺第三十一世如浄禪師に出会うことができた。

師のもとで猛烈な修行の日々を重ね二十六歳のころ「身心脱落」という言葉で表される決定的な宗教体験を得た。そして二十八歳のとき帰国した。

道元禪師が持ち帰ったものは、如浄禪師からもらった何枚かの印可状（卒業証 書のようなもの）と自筆の「碧岩録」（禪の問答集のようなもの）だけであった。しかし道元禪師の体の中には禪の真髄が満ち溢れていた。

帰国して、その第一声に「眼

横鼻直」と言い、「空手還郷」と言っている。実は、身心脱落とはいえ、特別のことではない。眼は横に鼻はまっすぐ、ありのままを自覚したままである。そのほか、何も土産はなかった。空手で帰ってきたと言っているのである。

故郷の京都に落ち着き、建仁寺で旅装を解いた。次に深草の安養院に移り、三十四歳のとき中国の僧堂を模範とした興聖寺を建立し、坐禪の仏法を説き、多くの人々を教化した。

その後、既成教団等の圧迫などにより、越前に移り、吉峰寺、禪師峯寺などの古寺に移り住み、やがて大仏寺を建てた。大仏寺を永平寺と改称したのは、道元禪師四十四歳のときである。

道元禪師は、一度だけ執権北条時頼の要請により鎌倉を訪れた以外は永平寺を離れず、約十年間永平寺で弟子たちの育成に努めた。『普勸坐禪儀』『弁道話』『学道用心集』『典座教訓』『正法眼蔵』など、多くの書物を残し、数え五十四歳で示寂した。

## 大本山 永平寺

開山は、道元禪師。開基は、波多野義重。寛元元年（一二四三年）、京都深草から越前に入り、吉峰寺・禪師峯寺に住み、寛元二年七月、傘松峯大仏寺を建て、寛元四年六月に永平寺と改名した。また、宝治二年（一二四八年）十一月、傘松峯を吉祥山に改めた。永平寺の寺名には、積尊から伝わる正しい仏法を実践する日本仏教の総府であるとの、道元禪師の自負がうかがわれる。



大本山永平寺全景

余棟から成る。代表的な建物は、山門・仏殿・法堂・僧堂・庫院・浴室・東司のいわゆる七堂伽藍であるが、このほか、承陽殿（道元禪師御廟）、衆寮（修行僧が読書などをする建物）、接賓（本来は来客をもてなすところであるが、修行僧の教育に携わる役僧の部屋がある）、不老閣（住持の居室）、妙高台（住持が来賓に対応する部屋）、大光明蔵（住持が檀信徒に説法を行う部屋）、傘松閣（参拝者をもてなす広間）、菩提座（指導の役僧が修行僧に講義等をする部屋）、祠堂殿（檀信徒の位牌をまつる堂）、舍利殿（檀信徒の納骨堂）、吉祥閣（檀信徒の研修所）、一華蔵（宝物庫）、経蔵、勅使門（住持・勅使または特別の来賓を送り迎える門）、鐘楼そのほか、延べ四五〇〇坪あまりの建物がある。

七百数十年間栄枯盛衰を繰り返しながら、不滅の法灯を掲げつづけている。曹洞宗の檀信徒であれば、一度は参拝をすべき寺院であらう。

（福井県吉田郡永平寺町志比）

## お盆の起源

お盆というのは正しくは盂蘭盆うらぼんといい、ウランパーナという梵語ぼんごからきたものです。それが中国に入って「救倒懸くわうけん」と訳されました。倒懸とは地獄で逆さまにつるされている、激しい苦しみを意味し、その苦しみを救い助けるといのが「救倒懸」、すなわち盂蘭盆の行事です。



また、盂蘭盆の盆には、器の意味があります。百味五果と称する種々の供物を盆器に盛り上げて、これを仏様や仏のお弟子に供養して、その功德をもって衆生倒懸しゆじようけんの苦しみを救うという意味です。

お盆の因縁は、お釈迦様が御在世の時に遡り、十大弟子の中の神通第一の目連尊者まくれんそんじやという方がいました。

ある時、神通力で大千世界の一切の境界を見渡すと、我が母が餓鬼道に堕ちて苦しんでいる様子が見えました。

目連尊者には助ける術がなく、御仏のもとに至り、泣く泣く救助の法を求めると、釈尊（お釈迦様のこと）の静かに仰せられるには、

「目連よ、汝が母の罪はあまりにも重くて、諸天善神しよてんぜんじんも除くことができない。今はただ十万の僧の力を借りるほかはない。七月十五日は、比丘びく・比丘尼びくにたち（男女の僧）が集まって懺悔する日だ。この時、百味の飲食おんじき（たべもの）を供え、各地の僧に施しなさい。僧たちはその供物を受けて、一心に汝の母を苦しみから逃れさせるように祈るであらう。」と。

目連尊者のお母さんはこのようにして、餓鬼道の苦を逃れることができ、これを因縁として盂蘭盆会の行事が始まったと言われています。

## 浄泉寺大施食会と

### 棚経たなぎようのお知らせ

◎ 施食会 八月十七日（月）

午前九時から

当寺本堂でお勤めします。

施食会は、もとは施餓鬼といっておりましたが、現在曹洞宗では、人権的見地から「施食会」と呼ぶようになっております。近年は新盆を迎える方の参加が大半ですが、この施食会は、縁のある無しを問わず、広く諸精霊しよせんりやうに飲食おんじきを施す法会です。他のためにする供養は、自分自身に積む善徳となります。《施す手は欲を捨てる手。捨てる手におのずと福満ちる。》です。是非、ご参拝ください。施食会での、ご先祖様の卒塔婆供養をお勧めいたします。供養料は、一本三千円です。

### ◎ 棚経

八月十三日（木）

午前 伊篠・飯仲地区

午後 中央台・東酒々

井・その他酒々

井地区

八月十四日（金）

午前 並木町・飯田町

成田ニュータウン地区

午後 富里・佐倉地区

八月十五日（土）

午前 その他地区

不在の方は、必ずご連絡をお願いいたします。原則として日程の変更は、お受けできません。この日程で不都合の方につきましては、本年度より八月十三日から十五日までの毎日午後五時より当寺本堂にて、合図でご供養いたします。午後四三十分までに、お越しの上お申し込みください。

・供養料 三千円以上  
・卒塔婆つき供養料 五千円以上

※ 卒塔婆つき供養の場合は、当日申し込みはできません。

### ◎ 新盆について

今年新盆を迎えるのは、

平成二十年七月より

平成二十一年六月までに逝去された方です。

（お盆（八月十三日）までに四十九日忌を終えられた霊位です。）

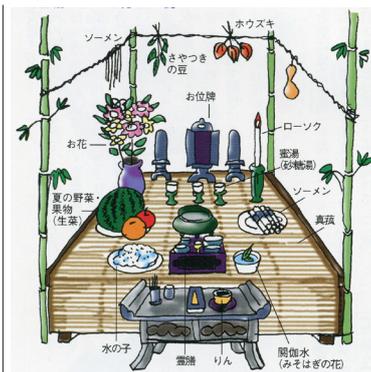
### ◎ 新盆棚経

八月九日（土）

八月十日（日）

※ 対象となるご家庭には、別途詳しくご案内申し上げます。

精霊棚の飾り方の一例



## 天井絵の高橋画伯から油彩画寄贈



高橋画伯から印旛沼（印旛村吉高周辺）を描いた油彩画の寄贈がありました。嘗ての印旛沼を彷彿させるような懐かしい絵です。早速客殿の奥の部屋の壁に架けました。有難うございました。



法要で導師を勤める住職



お客様に降誕会お話を

近所の子供たちも甘茶をかけたも賑やかで楽しい一日でした。また、このようなライブを計画します。



YOU子さん・岡田さん・カオリンさん

去る四月五日(日)午後三時から本堂でお釈迦様のご誕生をお祝いする「花まつり」行事に併せ、ヴォーカリストのYOU子さんをお招きして、ライブ・コンサートを開催しました。

当日は、天候にも恵まれ檀信徒の皆様はじめ、定員を上回る

大勢の参加者で、本堂がいっぱいになりました。

YOU子さんは、得意のシャソンのほか童謡や唱歌、更にふるさとの民謡「五木の子守唄」 「おてもやん」なども披露されました。

シンセサイザーの岡田さんとアコーディオンのカオリンさんの生演奏もすばらしく聴惚れてしまいました。

近所の子供たちも甘茶をかけたも賑やかで楽しい一日でした。

また、このようなライブを計画します。

家族の一員として過ごした大切なペットのやすらぎの場として浄泉寺墓苑の一角に供養等を用意しました。

■合 祀 一万円より  
■個別安置 五万円より

※墓誌に名前等を刻む場合は、別途費用がかかります。お問い合わせください。



### 永代供養墓のご案内



様々な理由により個別にお墓を建立することが困難な方のための永代供養墓です。永代供養の期間や方法について、多様な契約をご用意しております。

- ご夫婦向け 六〇万円
  - 個人向け 二〇万円
- ※墓前供養・納骨・字彫り込み

### ペット納骨塔のご案内

家族の一員として過ごした大切なペットのやすらぎの場として浄泉寺墓苑の一角に供養等を用意しました。

### 各種講座の等のご案内

◎梅花流(曹洞宗) 御詠歌講  
梅花流詠歌は、曹洞宗の御詠歌・和讃です。

詠賛歌を学んでいくと自然に安らかな気持ちになり、正しい生き方を実践することができま。そして生きるための希望と、生きていくことへの感謝の心で幸福になります。どうぞお気軽にご参加ください。

毎月第三土曜日

午後二時から午後四時まで

#### ◎坐禅会

曹洞宗の信仰生活の中心は、坐禅です。仏法を味わい、自己をみつめることができます。

毎月第一日曜日

午前六時から午前八時まで

#### ◎写経会

最も簡単な仏道修行であり、心身を調べ、静に落ち着いた時間を大切に祈りや願いを生活に活かすことのできる写経を、是非始めてみませんか。

毎月第三日曜日

午後二時から午後四時まで

※これらの講座は、日時が変更となる場合がありますので、お問い合わせください。

### やすらぎは 先祖の供養から

年回表
平成二十一年
一周 忌 平成二十年
三回 忌 平成十九年
七回 忌 平成十五年
十三回 忌 平成九年
十七回 忌 平成五年
二十三回 忌 昭和六十二年
二十五回 忌 昭和六十年
二十七回 忌 昭和五十八年
三十三回 忌 昭和五十二年

### いざという時は 先ずお寺にご一報を

ご葬儀は、どなたにとっても慣れないことですので、いざという時は慌てて、事後に後悔したお話をよく耳にします。また、時間的・経済定期問題で判断に迷うこともよくあるようです。近年は、葬儀業者によって主導的に進められる例が多くなっており、先ずは菩提寺にご一報ください。いろいろなアドバイスをすることができます。また、慌てないために予め菩提寺に相談しておくことも重要です。(何時でも結構です。)